

【尾崎製紙所 片岡あかりさん】(仁淀川町)

土佐清帳紙の技法を引き継ぐ工房。代々、女性が漉いて男性が小役を務めてきた。結婚後は夫の久直さんも紙づくりを支えている。「障害をもつ子どもたちも原料の作業や製品加工ができるような、屋根のある楮蒸しの共同作業場を造りたい」と、あかりさん。



三極は石垣にも。



原料繊維に「アク」をほどよく残すと、墨の食い付きが良い紙になるという。

風格のある薪窯と「こしき」。すぐ左手は家の台所。

「Kaji-House」は工房近くに建てたアンテナショップ。紙の話は尽きない。(現在は予約制)



仁淀川を望む山上集落のパノラマビュー。
楮は長年自家栽培して販売もする。原料生産の実情をよく知る尾崎製紙所は「土佐の山・紙資源の会」活動に参加している。「紙漉きの最後の砦になればいい」との言葉がリアルに響く。

